

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1170500407
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社
事業所名	愛の家グループホーム白岡
所在地	〒349-0213 埼玉県南埼玉郡白岡町高岩65-1 (電話) 0480-90-5450

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月30日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	20 人	常勤	17人, 非常勤 3人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり900円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	21 名	男性	7 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	57 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたま記念病院、埼玉脳神経外科病院、幸手ひがし歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、新白岡駅より車で5分のところにあり、のどかな田園風景に囲まれ、自然に恵まれた環境にある。近隣には、スーパーや公園などもある。開設以来満4年が経過しているが、その中で心から安心して生活していただけるようにホーム長、職員一丸となり取り組んでいる。特徴としては、グループホームでの生活に至る前に、生活体験を提案し、利用者ご自身が納得してから入居されるよう努めている。また、医療機関との連携が充実しており、健康管理には配慮されている。重度化した場合における指針も作成されている。地域での活動「太極拳教室」に参加する利用者もいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価に基づいて、要改善点として挙げられた中で、洗濯場の洗剤や漂白剤については、保管方法に工夫が見られた。また、ホーム機能の地域への還元については、地域との関係づくりに苦慮されている様子が伺える。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の記入にあたり、管理者とユニットリーダーである職員で話し合いまとめられている。自己評価されることで日々のケアの振り返りになり、サービスの質の向上に結びつくことを認識している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、昨年11月頃までは定期的開催し、行事や地域との交流などについて話し合いがされてきたが、現在は、出席される委員が限定され少ないことなどを理由に行われていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 苦情受付箱を取り付けたり、運営母体の会社より定期的にアンケートを郵送したりしている。面会時には状況を報告し、必要時は電話連絡をして家族の意見を聞いている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム内で行う行事などには、地域の方を招待している。今後は、自治会の活動に参加していきたい意向である。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営母体の会社としての理念もあるが、ホームの各フロアごとに管理者や職員で話し合い、ホーム独自の理念を作り、実現に向けて取り組まれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝・夕礼時に会社の理念を読み上げているほか、ホーム独自の理念に基づき、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム内で行う各種の行事に、近隣の方を招待するなど、地域との交流に努めている。今後、地域との交流・つきあいをさらに深めていくために自治会への加入を検討している。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を活かして、具体的な改善に向けて取り組んでいる。自己評価では、管理者と職員で話し合いのうえ記入し、評価を実施する意義を理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	これまで数回の運営推進会議を開催している。会議では、行事や地域との交流などについて要望、助言などについて話し合いがされている。しかし、昨年11月以降は開催されていない。		運営推進会議には、利用者や家族が交代で参加できるようにしたり、開催日や時間帯を工夫するなどして、会議再開へ向けて取り組み、サービスの向上につなげられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とともに、サービスの質の向上に取り組んでいる。グループホームとはどういう所か、認知症の方との対応の仕方など、広報等で知らせていただけるように要望したり、ホームとしての話を聞いてもらうなどして連携づくりに努めている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1度、生活面や健康面、行事での様子など報告している。また、面会時も状況報告をしているほか、必要時には電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の受付ボックスを設置しているほか、運営母体の会社よりご家族へ直接アンケートを郵送している。苦情等についての対応は、3ユニットごとのリーダー会議で協議し決定している。決定事項は職員に伝達している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職による利用者へのダメージを少なくするため、普段のコミュニケーションを密にしている。仕事での悩みを打ち明けられるような関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講習の受講や、資格取得の推進を行っている。また、知識や技術の習得ができるよう、働きながらの学びの機会をつくり、職員育成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流や連携を取り、行事への招待や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する際は見学をしてもらっている。また、馴染めない利用者には家族と話し合い、昼間の時間帯だけ入居体験してもらうことや、馴染みの家具を用意してもらうなどして、雰囲気に馴染めるように努めている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に教えられることが多く、戦後の子育ての苦労された話などで励まされたりすることもある。また、利用者にはできることはしてもらうようにして、支えあう関係づくりを築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の意向把握に努めている。職員は、利用者一人ひとりのペースで生活できるように、また、本人が言いたいことが言えるようにし、希望を出来るだけ実現してあげるよう努力している。意思が十分に伝えられない利用者は、職員が推測に努め支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の状態、生活歴、本人の希望、家族の意向を考慮して、好きなことやできること、できそうなことを、利用者の立場に立ち介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>概ね3ヶ月に1度介護計画の見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば、そのつど新たに計画を作成するようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	外泊や通院時の付き添いなど には利用者からの要望に応じ て柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	協力医療機関より毎月計6回 (3ユニット)の往診を受けて いる。場所も近く、かかりつ け医もよく話を聞いていただ ける関係にある。なお、入居 前のかかりつけ医についても 受診できるように支援してい る。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	運営母体の会社として、重 度化に向けた指針を作成し対 応している。ホームでの生活 が可能な限り継続していける よう努めながら、医療が必要 な方やホームでの生活が困 難になった方など、段階を踏 んで話し合いを持っている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバ シーを損ねるような言葉かけ や対応、記録等の個人情報の 取り扱いをしていない	利用者と接する際は、誇り やプライバシーを損ねないよ うな対応に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先 するのではなく、一人ひとり のペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希 望にそって支援している	利用者のペースで過ごせる よう、利用者が言いたいこと を言えるよう、またそれが実 現できるよう支援に努めてい る。午前中入浴や夕食後の入 浴など要望に沿って支援して いる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせた食事形態にしている。ご飯茶碗や箸などは個人の物を使用したり、職員も一緒に食事するなど食事を楽しむことができるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴ができるように支援している。午前中でも、夕食後でも入浴支援を行っている。また、状況を見ながら入浴をされない方でも入浴できるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、買い物、塗り絵や散歩、洗濯物整理などを、楽しみながら一緒に行い、役割や楽しみごとの支援をしている。また、地域の太極拳の講習会に参加することもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の中には、スーパーへの買い物や一時帰宅してお孫さんに会いたい方もいらっしゃる。職員はそうした利用者の希望に沿えるように外出ができるよう支援している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階ごとの施錠は、週1回開放される日を設けている。玄関の施錠は、利用者の無断外出による事故防止を優先し、昼夜を問わずされている。管理者及び職員は、ホーム内の各階ごとの施錠をしないで済むように家族と協議していく考えである。		玄関の施錠については、理念に沿って利用者が出たいときにいられるような体制作りとあわせて検討していくことが望まれる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。消防署の協力を得て消火方法や応急手当の方法などを受講して身に付けている。ただし、地域の方々の協力・参加は得られていない。		災害時に備え、地域の人々の協力も得られるよう、日頃から話し合いの機会をもち、連携を図っていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、チェック表により把握されている。栄養バランスは、管理栄養士が献立を立てている。食事量が少なくなった方などには、かかりつけ医に相談している。また、どのようにしたら食べやすくなるか検討している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンにより光の調整を行い、居間や食堂には季節感を感じられるように張り物や飾りつけをし、居心地よく過ごせるように工夫をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に対しては、使い慣れたものを持ち込んでいただくようお願いしている。また、必要とされるものは随時持ち込んでもらえるように連絡している。		